

# 月報アルバム

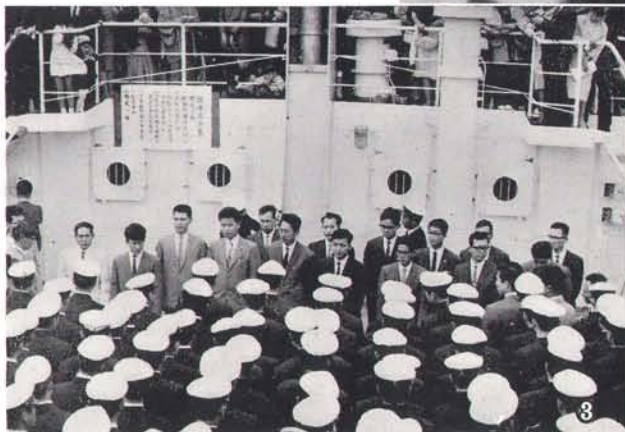
## 日食観測団の出港式

本誌1月号および4月号においてお知らせした通り、本年5月30日、南太平洋で行なわれる皆既日食を観測するため、日本から総勢19名の日食観測団が編成され、運輸省航海訓練所の「進徳丸」に乗り込んで、4月24日、横浜を出港した。ここに掲げるのは、その出港式の模様である。



① 出帆準備完了した進徳丸。

② 船上より別れを惜しむ団員達、  
右より2人目が斎藤団長。

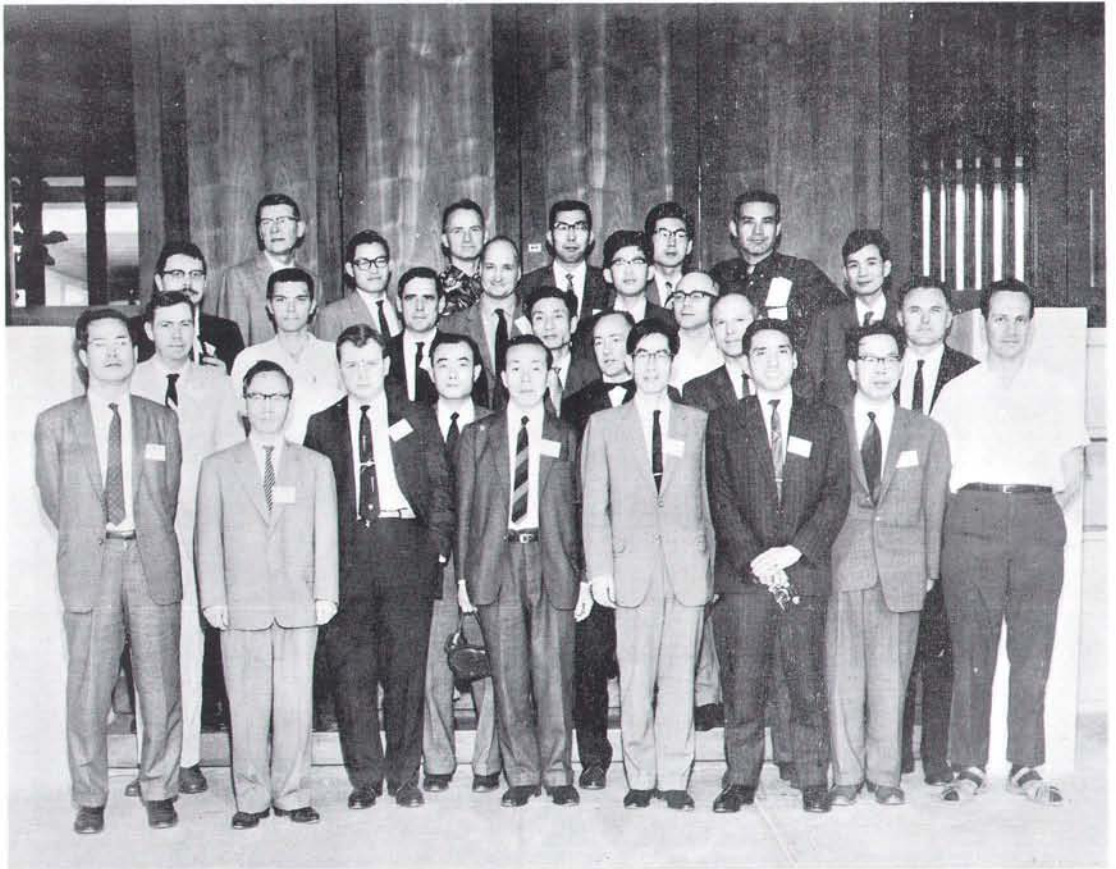


③ 出港式風景，観測団員の紹介  
を行なっているところ。

太陽大気に関する日米合同セミナー

本年2月1日より4日間にわたり、ハワイ大学東西センターで日米合同セミナーが開かれ、アメリカ側から14名、日本側はアメリカから来た日江井・内田両氏を含めて13名が出席した。第1日は器械と日食などの将来の計画の話、第2日は光球とプロミネンス、第3日は彩層、第4日はコロナとラジオ・バーストという順で論文が読まれた。その他に総合報告があり、オラル氏が太陽の速度場、レイトン氏が太陽磁場、守山氏が彩層の構造、ニューカーク氏がコロナの構造、高倉氏がバーストについて、それぞれ一時間程度の講演を行なった。

小人数でしかも4日もあったので討論の時間がかなりあり、例えば海野氏の講演の最中にトーマス氏が出てきて議論を吹きかけたり、末元氏の彩層のHK線の話のときには、キットピーク天文台のピアス氏が「なかなか興味深いお話ですが、理論屋さん達はどうかお考えですか」といんぎんにジェフェリーズ氏やトーマス氏にけんかをけしかけたり、大へん有意義な会であった。ただアメリカ側の電波屋さんの出席が少なかったことが惜しまれた。毎日セミナーが終ると元気のよい人達はワイキキ海岸で波乗りに興じたが、誰もあの波乗り板の上に立上ることはできなかったようである。



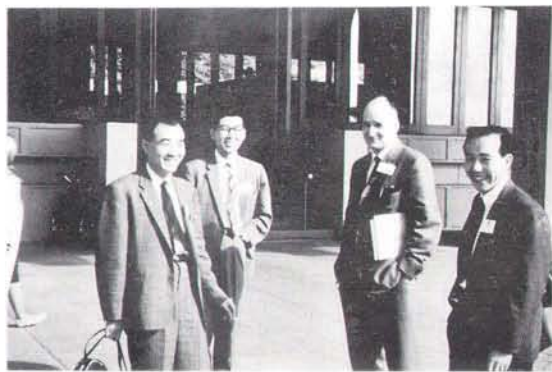
出席者の記念撮影

セミナー終了後行なわれた記念撮影。写真にうつった順の横座標順に氏名を記すと、森、Orrall, Erickson, 末元, Mulders, Zirker, Newkirk, 日江井, Jefferies, 河鱈, Warwick, Thomas, 田中, 高倉, 守山, Athay, 平山, 海野, 牧田, Elste, Piers, Zirin, 内田, 川口, 宮本, Leighton, Sturrok.

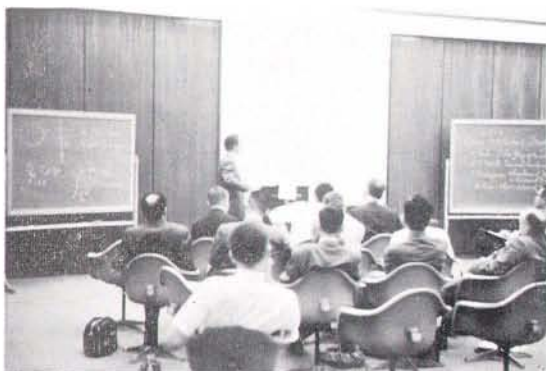




会場のハワイ大学東西センター。



東西センター玄関で、右から田中・トーマス・牧田・河鱈の各氏。



講演中の斎藤国治氏。



ジェフェリーズ家で右よりマルダース・トーマス・川口の各氏、マルダース氏はオランダのミネルト教授のところにいた人。



会場風景・右端はレイトン氏。



ジェフェリーズ家に呼ばれたときの1駒、左手前はエールステ氏、中央はジェフェリーズ夫人。